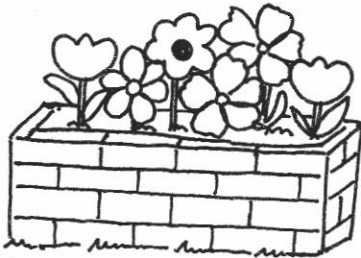


5 花のある農場

住宅や畜舎のまわりの花は、家族の人、地域の訪れる人を楽しませてくれます。

花の楽しみ方は花壇だけではありません。最近では、ドライフラワーでリースづくりをしたりハーブを栽培して、ハーブティーにしたり、花を育て、観賞する楽しみだけでなく、味わう楽しみかたをする人も増えてきました。農作業の忙しい合間にこそ花を楽しんでみてはいかがでしょうか。

(1) プランター栽培



プランター栽培の場合、限られたスペースでの栽培ですから保水・排水・保肥のなかでも特に排水（水はけ）が大切です。

水はけが悪いと根腐れを起こし、生育が極端に害されます。以上のことから用土は種類だけでなくいろいろな土を混合して培養土を作ることが大切です。

(2) フラワーロード

農場入り口からのフラワーロードは訪れる人を優しく歓迎してくれます。

フラワーロードに向く花は、コスモス、ミックスフラワー（直播きのいろいろな品種が混ざったもの）ひまわり（背の低い品種も良い）などです。

<フラワーロードをつくるポイント>

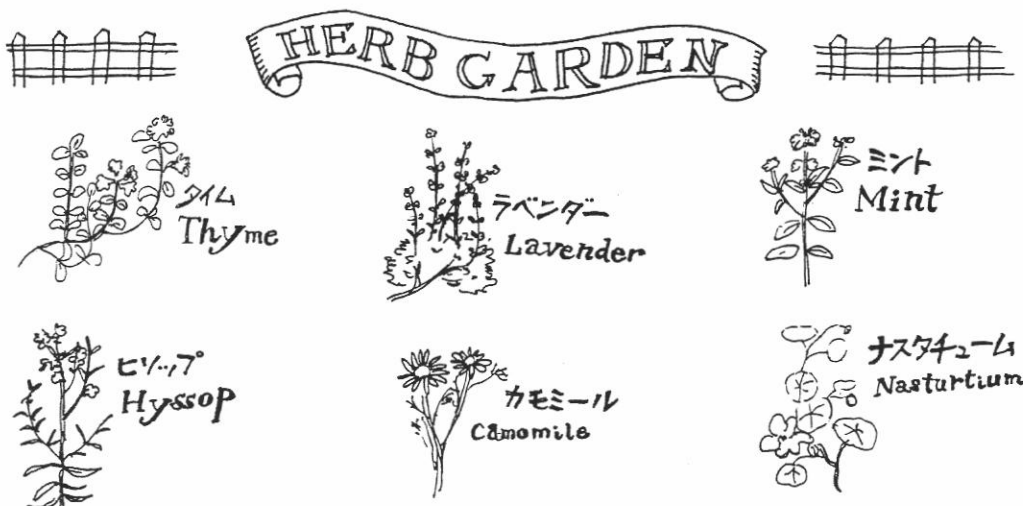
雑草を取り除いて植える場所を平らにします。土壌の条件がよければ無肥料でもよいのですがそうでない場合1㎡あたり40～50g化学肥料をまきます。種は条まきか、乾いた土と種を混ぜレーキで平らにならします。発芽するまで表面を乾燥させないようにします。

(3) ハーブガーデン

ハーブとは香りの植物のことで、数えきれないほどの種類があり、その利用法も様々です。

<ハーブの栽培のポイント>

ハーブは太陽が大好きなので一日中日が当たる場所を選びましょう。水はけが悪い場所をきらいますのでその様な場所は、高うねにして排水をよくします。ハーブは、酸性に弱い性質のものもあるので、栽培する畑の酸度を調べ、石灰を施して中和させます。また長雨にも弱いので株の根本にマルチングをし、土のはね上がりを防ぐと良いでしょう。



6 芝生の造成と管理

芝生をつくってみよう

近年、「芝生を作りたい」という声が、あちらこちらで聞かれるようになりました。環境改善や美化の点で大変よいことですが、造成の経費や管理の手間などがかり、安易にとり入れると後で「しまった！」ということになりかねません。芝生は、数年しかもたない・・・というのではなく、管理次第では20年以上もつともいわれています。それを考えると、造成時は「造る」ものであっても、その後は「育てる」のが芝生であるともいえます。

いつまでも気持ち良く芝生を利用していくために、じっくりと造成計画をたてましょう。

(1) 造成第1のポイントは、場所の選定です

農場の周辺は、トラクターやミルクローリーなどの大型機械が走ります。冬場は、除雪した雪の置き場も必要です。住宅や牛舎、機械庫などの現有施設との位置関係や作業動線、将来の増築計画などを想定して、家族の意見を聞きながら、場所を選定しましょう。

芝生の生長のための排水や日当たりについても、もちろん考慮しなければなりません。また、周囲にレンガを置いたり、芝生の中に樹木を植えるのも良いものですが、その場合は刈込みの邪魔にならないような工夫も必要です。

(2) よりよく育ててゆくために

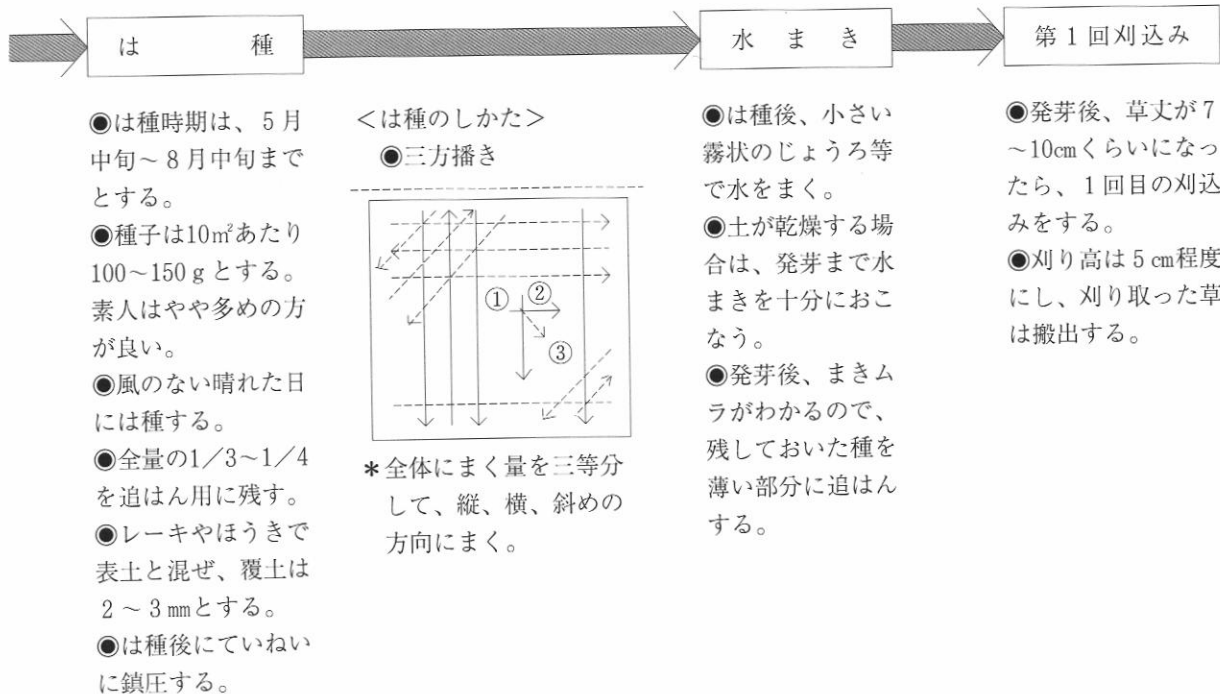
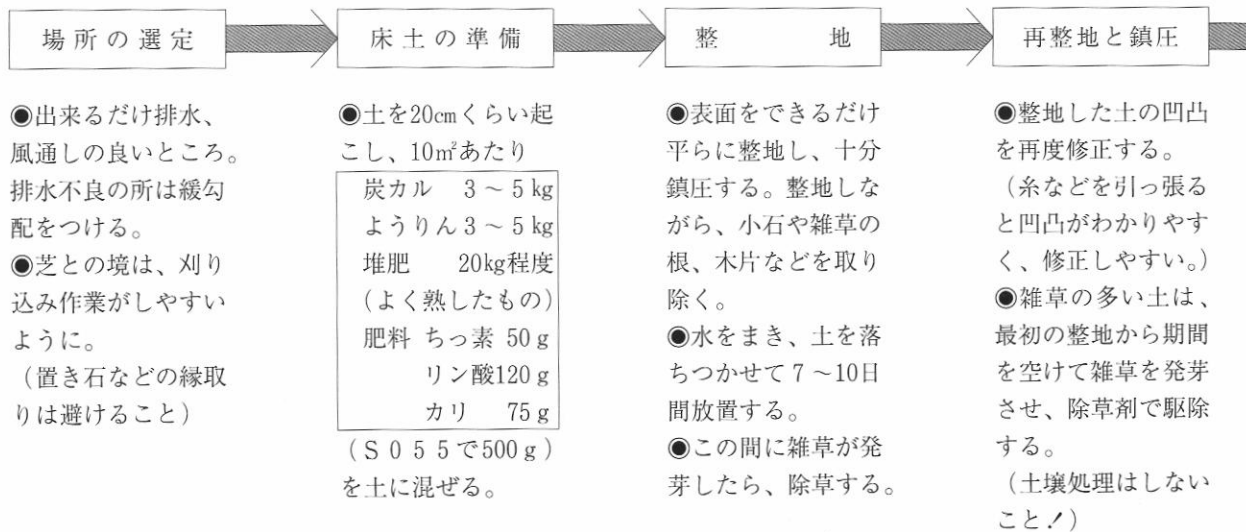
芝生を育てるコツは、①草種の選定②土壌改良③施肥管理④手入れの4つです。これらがひとつ欠けても、良い芝生を長期間維持してゆくのは難しいでしょう。

根室管内で適しているといわれる草種は、ケンタッキーブルーグラスです。ケンタッキーブルーグラスの中でも、耐寒性、耐病性が強い品種を選ぶことです。最近では、草丈があまり高くないわい性の品種も販売され、刈込みに手間がかかりません。

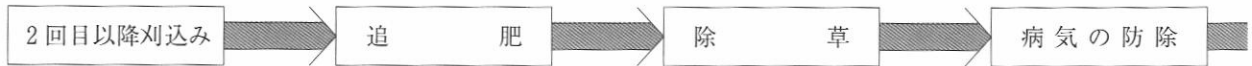


写真23 良く管理された芝生

(3) 造 成



(4) 維持管理

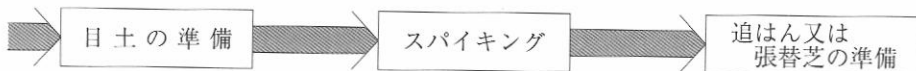


●1回目の刈込み後5～6日間隔で順次低くし、4回目くらいで1cm程の高さにし、以降、最低1週間に1回刈込む。
 ●刈込みの回数を増すことで美しい芝を作ると同時にショックで枯れるのを防ぐ。
 ●均一に刈り込むため芝刈機を使用したほうがよい。
 ●刈り取った草は除去する。

●刈込み後、年3～4回追肥を行う。
 ●追肥は、少量ずつ数回に分けて行う方がよい。
 ●1回の追肥量は、S055で10㎡あたり100gまでとし、砂等で増量して均一にまく。

●雑草が目についたら、小さいうちに抜き取る。
 ●2年目以降で雑草が多い場合は、除草剤を使う方法もある（造成初年目は避ける）
 ●除草剤の使用は専門家に相談する。

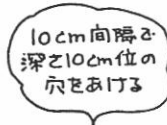
●病気の主なものと防除法
 <ブラウンパッチ>
 6月下旬～7月上旬にトップジン等
 <サビ病>
 発生したら、ダイファー水和剤
 <冬枯病>
 越冬前、根雪直前にトップジン等
 ●薬剤を使用する場合は、専門家に相談する。



●2年目以降、追肥も兼ねて目土を入れる。
 ●目土は、前年のうちに堆肥と土を混ぜておき、5月頃、5～6mmのフルイで散布する。
 ●目土は1㎡あたり2～4ℓ、厚さは1cm以内とする。
 ●目土はほうき等で芝の中にすりこむようにする。

●芝が古くなってくると芝地がかたくなって通気が悪くなる。5月と11月にハイホーク等でスパイクングを行う。
 ●部分的な裸地や全体的に密度が低くなった場合は、スパイクングを通常の3～5倍の密度で行うことで改善されることもある。

●衰退が著しく、スタンドが崩壊してしまった場合は、追はん又は張替をします。
 ●張替の場合は、造成時に別な場所で作っておきます。
 ●追はんの場合は、は種時と同種のを1㎡あたり50～100gは種し、目土でおさおさえます。



芝刈機の種類（参考）

一般には、500㎡を越えるとエンジン付き、10aを越えると乗用タイプをめやすにします。様々な機種がありますので、十分に検討しましょう。

走行機	動力	能力
手押式	エンジン無	—
手押式	2サイクル	1,000
自走式	2.4サイクル	2,000
乗用式	4サイクル	4,000

*能力は、1時間当㎡